

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201348		
法人名	(有)グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームかいぜ	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市皆瀬町 270-12		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々のペースで思い思いに過ごして頂き穏やかなゆったりした生活を支援しています。地域のボランティアの方や保育園の園児さんたちと定期的に交流をもち入居者の方々は楽しく毎日を送っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年2月27日	評価確定日	平成31年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保市皆瀬町にある“グループホームかいぜ”は開設から17年を迎えており、施設長(薬剤師)と管理者を中心に職員が結束し、理念の実践に努めてこられた。職員の多くが介護福祉士を持ち、介護経験も豊富である。入居者個々の生活歴を把握し、日々の活動の想いをアセスメント用紙に記入し、願いを叶える取り組みを続けている。日記をつけている方もおられ、鉛筆研ぎや励ましの言葉かけをしたり、植物が好きな方にはお花を生けて頂いている。入居者から行事や慣わし等のお話を聞いたり、昔の歌を教えて頂いている。昭和30年代から地域住民の診療を担ってこられた神谷医院の一部を改装したホームであり、24時間体制で院長とホームの看護師と連携できており、入居者と家族の安心になっている。家族から「ここに来てから明るく元気になってきた」と言うお言葉を頂き、職員も嬉しく思っている。終末期ケアも行われ、家族も一緒に最期まで誠心誠意のケアが行われている。今後も行動障害の背景にある多々の情報を分析し、解決策の検討に活かしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員それぞれが理念に沿って入居者に向き合っている	理念にある「笑顔で明るく自分らしい生活を送る為」、カラオケを楽しまれたり、歩行訓練をされる方もおられる。「一人ひとりの人格、個性を尊重し支援致します」と言う理念も大切にされており、入居者個々の役割(洗濯物たたみ・花を生ける等)を発揮して頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には必ず参加し日常的に交流出来る様に努力している	「つんのーで歩行ラリー」に入居者が参加し、豚汁等を楽しまれたり、夏祭りでは夜の花火を楽しまれた。保育園児と一緒に住職によるパネルシアターの上映会(なむなむ会)を見られたり、七夕飾りを楽しまれた。中学生の職場体験(お話・ゲーム)もあり、公民館祭りでは作品(書道等)を出展してい	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々が訪問された時や行事等の時、日常的な会話の中で行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの状況を報告し意見を頂きサービスの向上に活かせるよう努力している	運営推進会議で地域の課題(買物・ゴミ出し等)を検討し、地域に必要なもの(ボランティア等)の情報交換をしている。災害対策の検討も行われ、「非常食等」のアドバイスを頂いた。外部評価結果も報告し、「日頃の仕事を見直すいい機会になるんでしょね」等のお言葉を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の担当者と研修などで会った時には状況を伝えながら協力関係を築くようにしている	管理者が支所に行かれており、書類の書き方等の説明をして頂いたり、相談内容に応じて「法テラス」等の紹介をして頂いた。地域包括の方もホームの取り組みを理解して下さり、運営推進会議で「日常生活自立支援事業」等の説明をして頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で内部研修を行い拘束の無いケアに取り組んでいる	身体拘束は全く行っていない。日々の排泄ケア時の誘導の仕方も振り返り、ご本人の意向と声掛けの仕方が無理強ひになっていないか等の確認も行われた。夜間も含め、ホーム内を「歩き回られる」方がおられ、今後も「ご本人本位」の原因分析を深めていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い虐待防止に努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の中の安心センターを利用している方がおられる。推進会議で包括より、日常生活自立支援事業についての大まかな説明があった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居当日には詳しく説明している。又来訪された時には再度話し、理解・納得して頂ける様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を置いている。ご家族が来られた時は意見・要望等をいつでも話しやすいように声掛けをしている	入居者とゆっくり会話し、気持ちに寄り添うようにしている。面会時や家族会(年1回)で情報交換しており、敬老会では「サンパーク吉井」に行き、家族と一緒に食事やフラダンスを楽しまれた。面会時も職員から声かけし、「ここに入居できてよかった」「医院併設で安心」等の思いを伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や通常の勤務等で時間・機会をみつけ全体・個別に意見を聞き反映させるようにしている	施設長のお人柄もあり、管理者や職員は意見を伝えやすい環境が作られている。職員が自主的にアイデアを出して下さり、行事の企画等も検討されている。職員の日帰り旅行も継続し、リフレッシュできる機会になっている。管理者も職員の勤務希望を把握し、シフト組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員と接する時間を作りそれぞれの良い所を伸ばしゆとりを持って働ける職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に応じて研修会への参加、資格取得の声掛けをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームと話をしたり合同研修会に参加をしたり、合同での外出等を行い、サービスの質を向上させるように取り組んでいる		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、話を聞いて本人の状況・様子を把握する。不安・要望を受け止め安心してもらえる関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ、見学の段階から家族ともゆっくり向き合い、不安・要望をしっかり受け止め、安心してもらえるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって、今何が必要なのかを状況や話の中でとらえ、ホーム内にとどまらず、活用できる他のサービスを含め、適切な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いだけでなく、昔からの行事等の話を聞いたり、昔の歌を習ったりして、関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期の段階から今に至るまで、その都度ご家族を交えて、話し合いをし本人が安心して生活出来る様、協力体制を整えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに知り合いが来られた時には、楽しく過ごして頂ける様に、環境づくりをしています	家族と一緒に梅の花見に行かれたり、馴染みの店(モール)に洋服を買いに行かれています。遠方の家族に電話をかけたたり、年賀状も届いており、ご自分で年賀状を出される方もおられる。仕事仲間(部下)だった方が来て下さり、一緒に団欒される方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員は一人ひとりの性格、他の利用者の方々との関係をしっかりと見極め全員が協力し助け合って、楽しく生活出来る様に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむおえない事情によりサービスが終了した場合も出来る限り相談にのり、不安・心配が少なくなるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後は一人ひとりとゆっくり向き合い、日常の会話や生活の中で思い、意向を把握するようにしている。又困難な場合には表情・動作から推しはかれる情報を話し合い、検討している	日々の会話や活動を通して、思いの把握に努めている。センター方式を活用し、以前のお仕事や昔好きだった事、思い等を伺い、「花見がしたい」「家族が心配」「仕事をしたい」等の思いを記入している。「お墓参りに行きたい」等の思いを把握し、実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と入居前から話し合い、入居後はさらに今までの生活状況・経過等を把握する様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状況・心理状態・得意なこと・苦手なこと等は些細なことでも、記録し申し送り等で全職員は理解している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は日常生活の中で、家族には面会時に意見や気持ちをお尋ねしケアプラン会議で話し合っ希望に添ってプランを作成している	リハビリの視点も強化し、「廊下を歩く」や体操、洗濯物たたみ、テーブル拭き等と共に、日記をつける方には鉛筆削りや「励ましの言葉をかける」なども盛り込まれている。「娘さんと一緒に外出」等の家族の役割も記入している。センター方式を活用し、Eシート(24時間)にケア内容を総括している。	今後もアセスメントにADL(歩行、立位等)の詳細な能力、できそうなこと、介助の理由と共に、行動障害の内容と背景、理由分析等を追記し、ご本人の心身状況と「真の想い」に応じた計画作りに活かしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌に、ケアプランの結果・気付きはチェック表に記入し全職員がいつでも見ることが出来る情報を共有し実践、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人にとって必要で安心をえられることを、最優先し柔軟に対応している		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館まつりの作品出展、夏祭り、ウォークラリー等に参加し、地域の方々と交流しながら、豊かな気持ちで生活を楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診後は家族に状況を説明している。又主治医から指導を受けたり、不安・気掛かりなことは相談している。透析の方は主治医との連絡ノートを活用している	神谷医院がかかりつけ医の方が多く、毎週の往診を受けている。神谷医院は外来専門だが、夜間の体調変化時も院長やホームの看護師に連絡が取れる。家族が他科受診された時は手紙を持参して頂き、受診結果の共有もできている。今後も水分摂取量等の確認を行う予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気付き、状況は看護師に伝え不安なこと、心配なことはいつでも相談している。必要時には看護師からも主治医に連絡をし適切な診療、治療が受けられる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先の関係者と密に連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人も一緒に家族にアンケートを行っている。又状態に応じてアンケートは取り直し、主治医を含めて話し合いを行い、チームで支援に取り組んでいる	入居者全員がホームでの看取りを希望されている。24時間体制で医療連携でき、点滴や酸素吸入等も行われている。看取り時は看護師も一緒に夜勤し、介護職員と一緒にご本人と家族の不安を和らげるように努めている。家族の協力も有り難く、ご本人がお好きだったもの等を持参して下さった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に相談しながら、全ての職員が対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回火災訓練を行っている。近所の方にも協力をお願いし、全員で取り組んでいる。防災グッズも備えている。	神谷内科と昼夜想定訓練を行っている。30年5月と31年3月は消防署と一緒に訓練が行われ、アドバイスを頂いている。地域の連絡網に入れて頂き、自動通報には消防団のOBの方の連絡先を入れさせて頂いている。災害に備え、非常食用のご飯や水、クッカー、ヘッドライト、ヘルメット、入居者個々の頭巾等を準備している。31年度は地域合同で災害時の訓練が予定されており、地域の方の受け入れ等の検討も行う予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人おひとりを敬う事を忘れず、「してやる」という気持ちを持つことなく、プライドを傷つけない様な声掛け・対応を行っている	「やさしいことばで～。同じ目線で～。静かに語りかけましょう～」と言う標語を事務所に貼り、職員は日々確認している。優しい職員ばかりで、言葉遣いにも留意しており、入居者との会話を楽しまれている。個人情報管理も行い、「写真掲載の同意書」も頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や表情・家族の話などから入居者の思いや気持ちを受け止め、それぞれの気持ちを引出し表せるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者のペースを守り、一人ひとりの希望を優先し、楽しく生活出来る様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きをスタッフと一緒にします。おやつ作り時々しています	朝はホームで、昼夜は下の厨房で作り、季節の料理(おでんや冷麦、クリスマスランチ、夕ノ料理等)や、入居者の好物の炊き込みご飯等も作られている。梅干し作りを一緒にしたり、ホットプレートでパンケーキやお好み焼き等も一緒に作られている。テーブル拭きや食べた後の食器重ねをして下さっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量・食事摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは出来る方は自分でしてもらい出来ない方は介助で行っています。義歯は夜間に預かり、消毒も行っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	動きや表情で判断したり時間を見て誘導したり等一人ひとりに合わせて支援している	排泄が自立している方もおられ、布の下着の方もおられる。ご本人だけに聞こえる声かけを行い、トイレ誘導している。意思疎通が困難な方は時間誘導しており、失禁が減った方もおられる。泌尿器疾患の方もおられ、医師の指示を頂き、事前誘導のタイミング等の検討が行われた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分補給や食事・運動にも気をつけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいるが、希望や状況に合わせてシャワー浴もいつでも出来る様にしている	楽しい会話をしながら浴室に誘導している。週2回の入浴になっているが、失禁時はシャワー等をしており、壁に設置されている座位式シャワーチェアも活用している。菖蒲湯や柚子湯と共に、お茶の葉のお風呂も楽しまれ、ご自分で「お茶の葉が入ったパック」で体をこする方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、本人の希望をくみとり自室で過ごされる時間も大切に安心されるように支援します		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票を作成し常に確認できるようにしている。薬については資料を見たり看護師に聞いたりして理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	信仰されている宗教の方が定期的に訪ねてこられるので支援している。日記をつけられている方への支援(鉛筆研ぎ・励ましの言葉)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそえる様に考えてはいるが、実行できないことが多い	季節の花見やドライブを楽しまれたり、森きらら(動物園)や海きらら(水族館)にお連れしている。吉井の御橋観音様に桜の花見、五臓の里でユニークな案山子を見学されたり、大野モールで買物し、食事を楽しまれている。敬老会では恒例の「サンパーク吉井」に行き、家族も一緒に食事やフラダンスを楽しまれた。	植物が好きな方もおられる。散歩の機会を増やすために、まずは1階の花の水やりやプランター等で野菜作りを企画したり、新車(ワゴン)を購入したこともあり、ドライブや花見などの機会を増やしていきたいと考えている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望されてお金を所持しておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯を持たれている方がおられ、必要な時はかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動きやすいようにテーブル・ソファの配置替えを時々している	ホームは建物の3階にあり、リビングから教会のイルミネーションやお寺の桜を眺める事ができる。リビングで過ごされる方が多く、リビングと廊下に複数のソファが置かれ、テレビの音を聞き取れるようにスピーカーを設置している。リビングではカラオケを楽しまれ、昔の歌を教えてもらっている。今後は複数の場所に湿度計を設置し、加湿対策を行う予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の小さなもめごとや仲の良い人同士などの配置を工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族と相談して馴染みの品物を持ってきてもらい、本人が居心地良く過ごせるようにしている	ご本人の移動に応じて、ベッドの向きや家具の配置を工夫し、ポータブルの前にはカーテンスタンドが置かれている。写真や仏壇、数珠を置かれている方もおられ、お経を唱えている方もおられる。ご本人の想いに寄り添い、居室に洗濯物干しを置かれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には名前を書いたり目印をつけている。トイレやふる場はわかりやすく表示している		